

令和6年度 第2回射水市子ども・子育て会議
第2回射水市子ども施策推進委員会 議事要旨

- 1 開催日時 令和6年11月22日(金) 午後7時00分～午後8時30分
- 2 開催場所 射水市役所本庁舎 3階 会議室 302、303
- 3 出席者
 - (1) 子ども・子育て会議委員
小川委員(会長)、川井委員(副会長)、吉野委員、上田委員、伊藤委員、
山田委員、荒木委員、砂田委員、滑川委員、氏家委員、森田委員、
数井委員、山崎委員、宮島委員、篠田委員、林委員、亀谷委員 17名
 - (2) 当局
福祉保健部長、福祉保健部参事、福祉保健部次長、子育て支援課長、こども福祉課長、
保健センター所長、生涯学習スポーツ課長、学校教育課長、子育て支援課5名、
こども福祉課1名、保健センター1名、生涯学習スポーツ課1名、
ランドブレイン株式会社2名
- 4 欠席者 明橋委員、杉山委員 2名

会議次第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 協議事項
 - (1)(仮称)射水市こども計画について
 - ア 骨子案について
 - イ(仮称)射水市こども計画(素案)
- 4 その他
- 5 閉会

議事録
議事
協議事項

(1) (仮称) 射水市こども計画について

(事務局)(仮称) 射水市こども計画の骨子案及び素案について、事務局から説明

(委 員) 部活動の地域移行でハラスメントなどが懸念される。運動部だけでなく、文化部においても指導者に対するこどもの権利保護及び啓発の内容を入れなくてもよいのか。幼稚園や保育園の子どもが高校生と関わるのはよいと思うが、県立高校も再編になり大変な状況になっている。市内高校を支えていける市の体制が必要で、加えて高校生への支援も必要ではないか。市内に高校がなくなると地域に元気がなくなってしまう。

(委 員) 県から子育てお祝いパスポートが今年度で終了になるが、多子世帯のため引き続きサービスが継続されるとうれしい。

(委 員) 土日の部活動の地域移行について、移行先が学校ではないため、例えば新湊地区であれば、小杉地区や大門地区で部活を行う場合がある。交通手段がない生徒は親の送り迎えが必要となるが、送迎ができていないのが現状である。市から援助があればありがたい。

(委 員) 小中学校で起立性調節障害となり朝起きられない子が、小学生で 5%、中学生で 10% いると言われている。起立性調節障害の症状が現れている子どもは、ますます増加傾向にあり、学びの機会が失われている。病気を抱える子どもの学べる場が必要だ。このような病気によって学べない状況が続き親も子どもも家に居る状態になっている。家庭のことができなかったり、仕事に行けないといった悩みを抱えている。教育現場でも先生の認識にも差異があり地域全体の問題になってくると思っている。病気で学校に行けないことによって心が疲弊してしまい積極的なところがなくなってくるので、今のうちに対策をとっておくことが必要だ。子どもたちが大きくなってから対応するのは、将来を見据えた学力をしっかりと身につけることができないのではないかと感じている。

(委 員) 私が勤務している大学の学生でも、学科の 50 人中 1、2 名が起立性調節障害になり、資格・単位取得に影響している。

(委 員) (病気を抱える子どもの学びの確保に関して) 学校・地域・親と色々な人が知識をつけて、どうすればよいかという協議レベルを上げていく体制を整えていくことが必要だと思う。一方だけが知識を持って接するのではなく、皆で盛り上げていく必要がある。

(委 員) 不登校だった子どもが立ち直って授業を受けてくれればうれしい。こども計画は、綿密に練られていて良い内容だと思うが、それをどう繋げていくかがわからない。学校の先生方においては、子どもたちが将来ひきこもりにならないように一生懸命にかかわっていると思う。

- (委員) 不登校は社会全体の問題であることを共通認識とすべきではないかと思う。学校・教員というのではなく、市全体の問題として取り組むべきだ。
- (委員) 幼児教育の教員や保育士を目指す学生が減っている。県内全ての保育養成校で、来年度定員割れをするのではないかと懸念している。
- (委員) 保育・幼稚園、介護は大変な仕事であるにもかかわらず、待遇が悪いため、これまで国が処遇改善を行ってきた。ただ処遇改善を叫びすぎたために、大変な仕事だということだけが先に走ってしまった。本来、保育・幼稚園の先生は夢のある仕事だと思っていた人が、実は大変だと知り、わが子がなりたいと思っていても、親が大変だと言いはめる状況になっている。小さい頃から魅力や夢のある仕事だという周知・啓発の取組が必要である。
- (委員) 睡眠は大切だが、小さい頃からスマホを与えられて夜遅くまで起きている子どもが増えている。このことが、子どもの体調不良に影響していると考えている。睡眠と食事が重要である。気になる子どもが増えているので、このような子どもたちを支援してくれる先生を育成して欲しい。
- (委員) 子ども食堂を地域で開催している。当初は食生活環境が不十分な子どもが集まっていたが、今では子ども食堂に友達が集まるので、遊ぶ目的で来るようになり、子どもたちにとって良い居場所となっている。その間、コミュニティセンターの職員が安全に気を配っており、職員への負担が大きくなっていることも考慮して欲しい。
- (委員) 子育て支援センターでは、若いお母さんたちは自らが癒されたく、楽しいイベントを求めているように感じられる。若いお母さんたちのそのような状況に子どもが戸惑いを感じているように思われることがある。親自身が楽しむことを重視することは決して間違いではないが、その結果、気持ちが不安定な子どもを見受けられるようになってきた。やはり家庭で育てることや、子どもと向き合うことの大切さを伝えていかなければならないと思っている。
- (委員) 私の勤務先では、各企業の雇用関係の手続きを行っているが、父親の育休取得が増えていると実感している。母は1年間育休、父も数か月間育休をとる人が増えている。射水市は子育てが充実しているが、企業は人出不足に陥り、新たな求人・募集はできず、他の社員が補っている。
働くことと子育ての両立は難しいと思うが、子どもが病気の際は休みやすい職場環境を作り、雇用環境の整備を進めていくことが企業の持続につながると考える。

(3) その他

今後の予定 12月 : 市議会定例会にて計画素案の報告
 年末からパブリックコメントを実施
 R7.2月 : 第3回子ども・子育て会議にて計画案を提示